第4章 2020年度までの環境施策の方向

○ 3つのあいちについて、「安全・安心の確保」、「社会の低炭素化」、「自然との共生」及び「資源循環」に向けた4つの取組分野ごとに方向性を示し、具体的な取組を推進していきます。

環境と経済の 安全で快適に 県民みんなが 調和のとれたあいち 暮らせるあいち 行動するあいち ■身近な環境における気づきと行動の促進 ■事業者による自発的・積極的な環境負荷の低減 ■健康で安全な暮らしができる環境の確保 ・各種環境法令等に基づく工場・事業場への規制・指導 ・身近な川の水の汚れ具合や、水辺の生きものの調査な ・環境マネジメントシステムの導入支援など、自発的な 安全・安心 環境配慮の促進 どを行う水質パトロール隊事業の実施 ■非常時の環境汚染に対する体制の構築 ・環境影響評価制度の推進 の確保 ■環境学習の総合的な推進 ・工場等における火災・事故などを想定した、行政・事 ■化学物質の自主的な管理 業者によるマニュアル等の整備・見直し ・愛知県環境学習等行動計画に基づく総合的な環境学習 に向けた の推進 ・事業者の自主的な化学物質の適正管理の促進 取組分野 ■事業活動に伴う温室効果ガス排出量の抑制 ■再生可能エネルギーの利用促進によるエネルギー ■社会の低炭素化へ向けた意識とライフスタイルの ・事業者による自主的な排出削減取組の促進 の地産地消 社会の 太陽光発電施設等の導入促進 ・CO。排出量の「見える化」(エネルギー使用に伴う CO。 ■社会の低炭素化に貢献する製品製造と新たな環境 低炭素化 排出量を把握する「環境家計簿」等)の普及促進 ■環境と自動車利用の調和した社会の実現 産業の創出 ・次世代自動車等先進エコカーの導入促進、充電インフ に向けた ・環境負荷低減やエネルギー関連の先進的な実証実験・ ■環境負荷の少ない商品やサービスの購入の促進 ラなど次世代自動車のインフラ整備の促進 取組分野 技術開発の支援 ・「グリーン購入」の普及促進 ■環境負荷の少ない快適な都市・地域基盤づくり ■生物多様性の保全と開発・事業活動との調和 ■生態系ネットワークの形成を意識した自然環境の ■生物多様性の価値(自然の恵み)への理解と保全 ・開発などにおいて、自然への影響を回避、最小化した 自然との に向けた実践行動の促進 後に残る影響を、生態系ネットワークの形成に役立つ ・NPのなどが実施する森と緑の環境保全活動や環境学 ・生態系ネットワークの形成(地域の生態系ネットワー 共生 場所や内容で代償することにより、開発区域内のみな 習への支援 ク協議会の設置及び取組)の推進 らず、区域外も含めて自然の保全・再生を促すための に向けた ■恵み豊かな伊勢湾・三河湾の環境の保全・再生 ■健全な水循環の再生に向けた実践行動の促進 "環境負荷低減の仕組み"である「あいちミティゲー 取組分野 ・市町村と連携した県民の生活排水対策活動の普及 ・「三河湾環境再生プロジェクト」の推進 ション」の導入 ■廃棄物などの未利用資源を地域内で循環させる循 ■廃棄物の適正な処理と3Rの促進に向けた体制整 環ビジネスの活性化 ルへの変革 資源循環 ・循環ビジネスの発掘・創出支援、事業化の支援 ・市町村におけるごみ排出量の削減や資源循環の取組支援 たいない」の精神の普及啓発 に向けた

取組分野

- ■事業活動に伴う廃棄物の削減
- ・多量排出事業者の産業廃棄物処理計画による産業廃棄 物減量化の取組指導
- ■廃棄物の不法投棄などの不適正処理の未然防止
- ・排出事業者及び処理業者に対する、産業廃棄物の適正 処理の指導の徹底
- ■ごみの発生抑制・再使用を意識したライフスタイ
 - ・リデュースとリュースの実践例の紹介等による「もっ
- ■地域に根ざした環境美化活動への参加
 - ・協働による地域の環境美化の取組促進

総合的な 施策推進 に向けて

■「人づくり」の推進

- ・環境への負荷を減らす身近な環境配慮行動「あいちエコアクション」の実践を様々な場面で促す県民運動の展開
- ・自発的な環境配慮行動「あいちエコアクション」を促すためのコンテンツと環境調査結果や環境関連イベント等の情報の一元的な提供
- ・環境学習施設のネットワークの充実・強化
- ・「持続可能な開発のための教育 (ESD)」の普及促進